

## 熊本訪問の報告

飯塚拓也 統括主任 (竜ヶ崎教会)

主の御名を賛美します。

4月14日に発生した「熊本地震」の被災に対して、18日(月)の四役会で被災支援統括として訪問することを了承いただきましたので、19日(火)から20日(水)にかけてお訪ねしてきました。

なお、九州教区のホームページに、各教会の状況がまとめられていますので、詳細はそちらでご確認ください。現在の段階では、教会の建物被害は大きな被害はなく、信徒におかれても人的な被害はないと聞いています。ただし、益城町にお住いの信徒方もおられて、ご自宅の被害は当然あると思われます。また、余震が続き、余震の範囲が広がっていますので、八代教会や大分の教会の被害が今後発見される可能性も否定できませんこともお含みください。関東教区のホームページにも書き込んでおきました。(http://uccjkanto.holy.jp/joyful/joyful.cgi)

19日は朝に竜ヶ崎を出発し、新幹線で小倉に向かい、小倉駅で神学校の同級の福島義人牧師(小倉東篠崎教会)と合流、福島牧師の車で、大牟田正山町教会に梅崎九州教区議長を訪ねました。改めて被災教会の状況をお伺いし、九州教区としてのお考えも伺うことができました。

九州教区の三役が、16日(土)に被災教会を回ってくださって、これによって具体的な状況の把握がホームページに掲載されています。(http://qsyu.tank.jp/index.html) また、当然のことですが、今後の被災支援については検討を重ねるわけで、とりあえず現地の窓口として武蔵ヶ丘教会(神田道隆伝道師)を確認したとのことでした。

関東教区から九州教区へのお見舞として、20万円をお渡ししました。四役会では、九州教区総会に熊江副議長が行かれる時に、更にお見舞いを持参することとなっています。

その後、熊本に向かう途中で荒尾教会を訪ね、に星牧師ご夫妻をお訪ねしました。そして、その後在日大韓基督教会熊本教会に行き、牧師館で泊めてもらいました。熊本教会では、地震でアパートに大きな被害を受け住むところに困った方々を受け入れておられました。

20日(水)は、益城町に向かい、総合体育館にYMCAを訪ねる途中で、単立の木山キリスト教会にお寄りしました。建物は築13年とのことで、内外壁のひび割れ等は見られましたが、構造に関わるような被害はないように感じられました。しかし、教会前の道路や敷地内には影響が大きく、陥没、ひび割れ等地盤の弱さを感じました。牧師はお元気で、会堂内の方付けは名古屋の教会からのボランティアがありました。ただ、教会員の被害は相当でしょう。益城のもう一つの教会、聖書教会は全壊で牧師のご家族が瓦礫の中から助け出されたとのことでした(ここには訪ねることはできませんでした)。

その後、YMCAが運営を委ねられた、益城町総合体育館に向かいましたが、途中

の状態は言葉では尽くせないものでした。お盆に積み木を並べ、お盆ごと揺すって、積み木が重なり合って倒れているようなそんな状態でした。

しかし、ドラックストア等お店は開き出し、全部の商品は揃っていなくても買い物は可能でした。つまり、支援物資も必要でしょうが、地元でお金を使うことも大事だということです。

総合体育館でYMCAの責任者とお会いし、その後せっかくの機会でしたので昼食配布のボランティアをさせていただきました。時間が近づくと長蛇の列となるため、その整理をさせていただいたのですが、被災された方々とお話しすることができ、いろんな思いを吐露してくださって、聞くことができたことが大きな支援だったのかもしれない。21日から正式にボランティアが始められましたが、家屋の片づけは重機が必要ですから、むしろ避難された方や自宅で避難状態の方々へのケアが主なものになるのではと思います。同行された在日大韓基督教会熊本教会牧師の金聖孝牧師は東北大学のカウンセリングの講座を受けられたそうで、宗教者として被災された方々の心のケアをすることに使命を感じられたようでした。

20日(水)の午後には、錦ヶ丘教会をお訪ねし、川島牧師夫妻や教会員の方とお話しできました。そこに、たまたま草葉町教会の難波牧師が立ち寄られたので、ご挨拶させていただきました。その際に、熊本洋学校のジェーンズ邸が全壊とのお聞きしましたので寄り、残念な状態を目の当たりにしました。それから、熊本城東教会をお訪ねしましたがお留守でした。その後、武蔵ヶ丘教会で神田牧師とお話しし帰路につきました。高速道が通れない影響で渋滞があり、小倉には11時頃になりましたので、駅前のビジネスホテルに泊まり昨日21日(木)に帰宅しました。

ボランティアに関しては、行政のボランティアセンターや、益城町のYMCAを通して入ることが適当だと思います。九州教区としては、人的な対応も含めて、これからの検討だと思います。できることには限りがありますから、九州教区や熊本地区の判断を尊重しなくてはと思います。呼びかけがあれば、当然応えていくということです。

今は、祈りと支援(献金)が求められるところだと思います。

また、梅崎議長には、余震が落ち着いてからですが、地震の影響についての建物診断をお勧めしました。熊本だけではなく、八代や大分でも揺れが激しいので、また、不安を覚えている教会は他にもあるでしょうから、広く建物診断の希望をとってほしいかもしれません。

また、教団の会堂共済は、お見舞という形ですが、地震の被害にもすみやかに対応していただきますので、このこともお伝えしました。

今回の報告は以上となります。

皆様それぞれに関係されている方もいらっしゃると思います。私も5月にはもう一度熊本に入ろうと考えています。

本当に大きな災害で、今回は南阿蘇には入りませんでした。長期の期間の支援が必要だと思います。被災を何度も経験し、また、都度多くの支援をいただいた関東教区として、教区の祈りを一つに合わせていきたいと願っています。

なお、新潟教会長倉望牧師が、お米300キロを益城町に届けてくださいましたことも、あわせてご報告させていただきます。